

令和5年度 第1回かながわコミュニティカレッジ運営委員会 会議録

○開催日時 令和5年8月7日（月）10時00分～12時00分

○開催場所 かながわコミュニティカレッジ講義室1（かながわ県民センター11階）

○出席者

伊藤 真木子（青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授）

加藤 直樹（（一社）神奈川県専修学校各種学校協会 常任理事）

加茂 圭子（公募委員）

澤岡 詩野（（公財）ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 主任研究員）

志田 淳一（（社福）神奈川県社会福祉協議会地域福祉部 地域課 課長）

為崎 緑（中小企業診断士）

鶴山 芳子（（公財）さわやか福祉財団 常務理事 共生社会推進リーダー）

○議題

- 1 座長の選出について
- 2 令和5年度かながわコミュニティカレッジ運営委員会の進め方について
- 3 令和4年度かながわコミュニティカレッジ講座実施結果について
- 4 令和5年度かながわコミュニティカレッジ運営業務の実施状況について
- 5 令和6年度かながわコミュニティカレッジ講座編成の考え方について

○議事内容

議題1「座長の選出について」

（かながわコミュニティカレッジ運営委員会設置要綱第4条に基づき、座長を伊藤委員、職務代理者を為崎委員に決定した。）

議題2「令和5年度かながわコミュニティカレッジ運営委員会の進め方について」

（県事務局より資料1に基づき説明）

加茂委員

講座方針について、この後議論するという認識でしょうか。こういうのがあったらいいなというような話し合いをするのでしょうか。

県事務局

議題5において、来年度の講座編成について委員の皆様にご議論いただきます。事務局の方で（案）を作成したので、まずそれを説明し、委員の皆様からご意見をいただくというような流れになります。

加茂委員

ありがとうございます。もう1点お伺いしたいのですが、毎年、講座企画提案を募集し、運營業務委託団体を選定しているのでしょうか。

県事務局

神奈川県財務規則上、単年度契約しかできないため、毎年公募型プロポーザル方式により選定しております。

加茂委員

ありがとうございます。

議題3「令和4年度かながわコミュニティカレッジ講座実施結果について」

(県事務局より資料2-1、2-2に基づき説明)

加茂委員

受講された方に後からメールを送るというようなフォローアップについて、とても素敵だなと思いました。

実際に活動することになった際、どういう風に活動先を探されているのでしょうか。また、労力上大変だと思いますが、知る機会を多く設けるということは可能なのでしょうか。

県事務局

講座を受講して活動したいという方には、当センターの建物9階にボランティア活動相談窓口があるので、そちらを紹介しています。窓口では、実際に活動している団体の紹介やどういったかに参加していくのかといったような相談に応じ、受講後の活動につながるようなフォローアップをしております。

伊藤座長

ありがとうございます。為崎委員、お願いします。

為崎委員

先ほど事務局からご説明ありましたように、傾聴講座と発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座については、昨年度に限らず毎年度応募者が多いということですが、毎回受講される方はリピーターではなく、新規の方なのでしょうか。

また、これだけ多くの方が受講していて、実際、受講後に活動に入って動き出すという成果に結びついているのか、受託事業者さんの方で把握されていたら、教えていただければと思います。

受託事業者

傾聴講座と発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座については、毎年、定員の3倍くらいの応募があります。リピートについては、基本的には毎年新規の方がご興味を持って受講されているというのが現状です。ただ、抽選で3回や4回落選した方が次の年も応募するというケースはあります。稀に1人、2人は同じ講座を受講される方もいらっしゃいますが、こちらで特に把握はしていないので、通常どおりの抽選をさせていただいております。基本は新規の受講生の方とさせていただければと思います。

講座を受講した後のことなのですが、傾聴講座につきましては、元々こちらの講座は講座が終わった後に、傾聴のボランティアグループがそれぞれの地域で立ち上がっています。これはコミュニティカレッジを受講された方が自分たちの身近な地域で傾聴グループを立ち上げております。そちらの紹介が講座の中でありまして、傾聴グループに入って地域で活動する、高齢者施設に行ったりとか高齢者のお宅を訪問して話を伺ったりとかいったことを今までずっとしていたのですが、コロナの影響により、その活動がストップしてしまいました。活動がストップして3年経ちますので、令和4年度の受講生に関しては、そういったグループになかなか入るきっかけがなかったというのが正直なところですね。それを令和5年度に関しては、少し復活をさせていく予定であります。もしくは、ご自分の活動団体や職場で傾聴の技術を活かしていくということが令和4年度の傾向でした。

発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座については、基礎編と実践編がありまして、講座が終わると自主グループが立ち上がっています。自主グループでは定期的に情報交換をして、それぞれの課題や地域の情報を持ち寄っているという形で活動しており、受講生にはそちらに積極的に参加していただくように呼び掛けています。また、最近受講生の中に実践者が多いので、それぞれの活動の現場に活かされているというのが現状です。

為崎委員

非常に望ましい形だなと思います。講座を受講した方たちが自発的に活動を起こしていくというのは、素晴らしいことだと思いますので、他の講座も同じような動きになっていけば良いと感じました。

伊藤委員

他いかがでしょうか。澤岡委員、お願いします。

澤岡委員

ありがとうございます。傾聴講座と発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座についてですが、講座実施団体のシニアライフセラピー研究所がPRをしており、その団体が実施する講座だということで受講されているのか、それともコミカレの案内の中で、紹介さ

れているテーマに興味があるということで受講されているのか、気になりました。全国的に他の市民大学とか生涯学習とかをみても、傾聴は人気がある講座なのかなと思います。発達障がい児に関しては、そこまで盛り上がり講座が満員御礼というような話はあまり伺わないので、団体さんの魅力なのか、それともテーマとして魅力なのか、気になったところでもあります。

受託事業者

傾聴講座の講座実施団体は、シニアライフセラピー研究所という藤沢市にある NPO 法人で、発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座の講座実施団体は、びな・パートナーシップ・ひろばという海老名市にある団体です。その団体が実施する講座だからというよりは、このテーマに興味を持って申込みされる方が圧倒的に多い印象です。発達障がいを理解するという講座は、他のところでも実施されており、講座実施団体からの紹介もありますが、チラシや県のたより、神奈川県 HP を通してそこから申込みれるケースが多いので、テーマに興味があって申し込まれるのではないかと思います。

澤岡委員

ありがとうございます。おそらく発達障がい児に関しては、市町村レベルではあまり実施していない講座で、県で実施するからこそ意義のある講座なのかなと思います。

もう 1 点だけ伺いたいことがあります。ボランティア活動未経験者層の参加促進講座について、コミュニティカレッジが力を入れている部分だと思います。今回、申込者数が 105 名で、そのうちオンラインが 93 名となっており、オンライン講座を設定した効果かなと思うのですが、この方々の属性について把握されているのでしょうか。

受託事業者

今年度も同じくボランティア活動未経験者層の参加促進講座をしております、後ほどご紹介させていただきます。昨年度につきましては、申込時点では属性を取っておりませんが、受講後のアンケートの回答をもとに属性を集計しました。すべての受講生の属性ではないのですが、昨年度のテーマは、やはり男性の方が若干多めでした。年齢層としては、中心は 60 代、次に多かったのが 70 代、50 代ということで、30 代、40 代の方は 1 人、2 人ぐらいのアンケートの回答でした。「コミュニティカレッジを知っているか」という設問の回答をみると、6 割の方が初めて参加したという結果でした。ただ、「ボランティア活動をしたことがあるか」という設問の回答では、多くの方が既に経験していらっしゃるということで、このセミナーで初めてコミュニティカレッジを知ったという方が多かったように感じます。

澤岡委員

ありがとうございます。おそらく経験のある中で、違うテーマで関わってもう少し学んで活動を深めていくという方が増えたのかなと思うのですが、この未経験者層というのはかなり幅広い年齢層を対象にしていると思います。今回このテーマを選ばれたというのは、年齢層が高い方が関心を持たれそうなテーマだなと感じました。60代、70代、定年退職や子育てを終えて時間のある方をターゲットに意識してテーマ設定されたのでしょうか。

受託事業者

コミュニカレッジをまず知ってもらうということで、特別講座に関しては、関心のあるもの、それからボランティア活動につながるような形で設定させていただいております。ただ、昨年度に関しては、「絵巻物で読み解く江戸の市民社会～エコでボランティアな江戸の町に学ぶ」というテーマでしたので、若干、年齢層が高めだったかなと思います。私どもとしては、もう少し若い60代、50代や定年退職される前の方をターゲットにして、定年後、もしくは働きながら地域でボランティア活動をするという方をターゲットにしたいと考えております。

澤岡委員

ありがとうございます。やはりそこが働きかけるのが一番難しいところであると思います。

伊藤委員

ありがとうございます。鶴山委員、お願いします。

鶴山委員

報告のあった人気講座ですが、成果が大変上がっているのを確認させていただき、本当に素晴らしいと思います。自主グループが立ち上がっていたり、それぞれの活動を立ち上げていたり受講後の動きが分かり、何かその動きの部分をコミカレとして、あるいは神奈川県として、HP やパンフレット等で外に発信しているのでしょうか。講座を受講した方が実際に活動している様子が分かって、コミカレの講座が活かされていると伝わるとういなど感じたところです。

受託事業者

活動の発信について、こういう活動をしていますというのは、HP では講座の様子を発信しているのですが、受講後の活動についてはそこまで発信できていないので、参考にさせていただいて、活動の発信を考えていきたいと思います。なお、毎年、修了生アンケートを実施しております。その際、「今こんな活動をしています」や「コミュニカレッジの講座

を受けてどうでした」という近況報告をお寄せいただき、この講義室の廊下側に掲示しています。講座の休憩時間や始まる前に結構足を止めて読まれる方がいらっしゃいます。来られた方だけでなく、外に発信するというのは大変貴重だと思いますので、参考にさせていただきます。また、一部の講座ですが、毎年作成している年間パンフレットに受講生の声ということで、講座を受講してどんな活動をしているか、短いですが、生の声としてこれから興味を持っていただく方に届ける形をとっております。

伊藤座長

ありがとうございます。県の方から補足等ありますか。

県事務局

今、お話がありましたように、これから受講する方に対してイメージを伝えることは大切だと思いますので、積極的にHP等を活用して発信していくよう検討させていただきたいと思っております。

伊藤座長

他にご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。加茂委員、お願いします。

加茂委員

講演している方は多くの方に受講していただきたいと思うのですが、各講座のチラシに記載のリンクをみると、かながわコミュニティカレッジのHPへリンクを貼っています。多くの方に受講していただくには講座を実施する団体のHPにリンクが貼ってあると、講演していただく方にもいいのではないかと思います。また、講座を実施する団体のTwitterやFacebookのリンクも貼ってあるといいのではないかと思います。

議題4「令和5年度かながわコミュニティカレッジ運営業務の実施状況について」

(受託事業者より資料3-1、3-2に基づき説明)

為崎委員

特別講座のご説明があったのですが、7月1日に開催されたということで、コロナが5類に移行後の、行動の制御があまりなくなった中で、オンラインでの受講に限って対面での受講は入れずに行われた理由をお聞きしたいと思います。

もう1点、今年度に入って対面での講座が比較的できるようになってきた中で、受講生の中では「対面のできるなら対面で受講したい」という声が強くなってきているかどうか、そのあたりの感触をお聞かせいただければと思います。

県事務局

今回の特別講座につきましては、オンラインで実施しましたが、会場受講を希望される方は講義室での受講も可能というように対応させていただきました。対面で受講することにつきましては、オンラインですとネットワークや顔の見えるつながりを作るといった機会がないので、そういった意味では対面での受講を望まれる声はあると聞いております。

受託事業者

今回オンラインをメインで実施させていただいたのは、参加のしやすさが一番大きいかと思えます。時間も1時間半ということなので、参加がしやすいところや、講義室の定員が30人と限定でございまして、例えば、県民センターの2階のホールとかになると、1年前から予約しないとなかなか難しいということが1つあり、定員数のことを考慮してオンラインが良いかと思いました。

また、ハイブリッドという選択もあるのですが、ハイブリッド開催につきましては、スタッフの確保や音響の環境整備といった準備があることを考えると、なかなか7月前半に開催するということは厳しい状況でしたので、今年度についてはオンラインを中心に実施させていただきました。別会場でオンラインではなかなか入れないという方については、チラシでも講義室での視聴も可能と記載し、対面で参加していただきました。セミナー終了後、講師が講義室にお見えになっていたのも、会場参加の方と少しお話をさせていただく機会を設けるというような形態で実施させていただきました。

今年度につきましては、オンライン講座は継続して新しい層を開拓する、遠方の方に参加していただくというところでは、非常に魅力的だと思うので、継続という形が良いのかなと思っています。対面に関しましては、特に受講生に関してはほぼ影響がない形で実施してらっしゃるかなと思います。当初、コロナが5類に移行したということで、マスクの着用について、嫌がる方もいらっしゃるかなと思っておりました。講座ごとに「マスクの着用は自由です」ということでお伝えをさせていただいておまして、それに対して、マスクを着用していない方・マスクを着用している方が混在している状況になっており、グループワークに関しても、今までは距離を取って顔が近くなならないような形で3年間やってきましたが、特に今年については、「距離間に違和感があった」や「顔が近すぎるのではないか」という受講生からの声ほぼいただいております。そのため、コミュニティカレッジの講座は、講義形式とグループワークに関しては、コロナ前に戻りつつあり、あまりこちらが神経質にならなくても済むような形で受講生の雰囲気はそのような状況です。ただ、気をつけないといけないということで、休憩中の換気や講座終了後の消毒を引き続き実施し、対応させていただいておりますので、対面講座では皆さん安心して受講されている雰囲気が伺えると思えます。

為崎委員

今年度に入って難しいと思うのは、今までコロナでオンラインしかできない状況の中で、「オンラインでもできる」や「オンラインだから参加できた」という良さもあり、一方で、やはり対面の良さもありというところで、今年度以降はそれぞれの良さを取り入れていかないといけないという、とても難しいところに入っている気がします。私自身が、この前ある講座をオンラインで受講したのですが、その講座はハイブリッドで実施していて、予想以上に会場に来られている方が多くありました。先ほどハイブリッドの運営が非常に大変だというお話がありましたが、オンラインでもできると分かった環境の中で、対面でもできる環境に戻った時に、事務局や運営体制の制約を考えながらも、どうやってそれぞれの良さを取り入れていくのか非常に難しいところに入っていると感じます。無理のない範囲でそれぞれの良さを取り入れて実施していただければと思います。

伊藤座長

ありがとうございます。加藤委員、お願いします。

加藤委員

大変ながらも取り組まれていることがよく伝わりました。やはりそれぞれの良さを取り入れていくというところで、アーカイブのように振り返り講座ができると良いなと思います。そういう点どのように考えていますでしょうか。それこそ NHK だと NHK プラスという見逃し配信がありますし、そうすると大分様子が変わってくるのかなという気がします。

受託事業者

アーカイブに関しては、オンライン講座は録画をしておりますので、そちらを編集して YouTube のアーカイブ配信をさせていただいております。最近、機材トラブルは割と皆さん慣れてこられたので、当初の混乱ぶりはないのですが、復習だったり、聞き逃して再度視聴したいだったり、また、電車で移動中の際に視聴されている方もいらっしゃり、その方が後でゆっくり聞きたいといった場合があります。オンラインにつきましては、継続して録画をし、アーカイブ配信を実施するという事で準備を整えております。対面に関しては、録画するとなると、例えば、後ろからでも映りたくないという受講生もいらっしゃいます。また、欠席した方にとってはアーカイブがあると非常に喜ばれると思いますが、講師の音を拾うのがビデオカメラ、ホームカメラの撮影になってしまうので、なかなかそれが難しいです。コミュニティカレッジの講座は講義だけでなくワークもかなりあり、ワーク部分は顔が映ることからなかなか録画はできないので、緊急時については、録画をすることを検討することもあります。基本的にはオンラインでのアーカイブ配信ということで、そのような方針で実施しております。

加藤委員

ありがとうございます。

伊藤座長

ありがとうございます。澤岡委員、お願いします。

澤岡委員

2人の委員からオンラインやアーカイブのお話があったように、これからは上手く使い分けしていく時代なのかなと感じました。これはおそらく受託事業者の業務委託内容の中で最大限実施していただいていると思います。これからは県の話になってくると思うのですが、やはり障がいを持っていらっしゃる方々にも学びの機会を均等にというのがこちらのカレッジの大きな方針だと思います。今、最大限限られた人員の中でできることをやったださっていますが、例えばこれからは視覚や聴覚に障がいがある方が受講したいと、ただ、なかなか同じ教室の中で聞くことが難しいという中、今までだと手話といった人的なマンパワーで解決することになると思いますが、もし自分が障がいを持った時にそこまでお願いして学びの場に行く勇気があるかという、そこまでという気持ちになるかもしれないです。そういった時に、もしかしたら、「これに関しては音が少し悪いかもしれない」や「グループワークも参加しにくいかもしれない」といったようにお伝えした上で、ハイブリッドで受講できますといったような対応があるといいかもしれないです。障がいを持っている方々が相談に応じて、オンライン配信だけでなく、自宅から音を大きくして聞くことができるというような、こういったものを上手く利活用しながら、障がいを持っている方々に対して今までできなかった学びの場の機会をもっと持っていただけるような工夫ができるのかなと思います。これは委託する際の内容に入れてくる話なのかなと思います。せっかくこういう手段ができたので、これを上手く利活用していけたらなと感じました。

伊藤座長

ありがとうございます。今、手段とおっしゃってくださって、何のために使うのかという「目的」のところが大切だと思いました。受託事業者の方でというよりも、県の方で考えるべきこととして、是非お願いしたいなと思います。

他、いかがでしょうか。

県事務局

今いただいた情報の発信の仕方やバリアフリーの観点について、来年度の仕様書の作成にこれから入っていきますので、考慮した上で組み立てていきたいと思っています。

議題5「令和6年度かながわコミュニティカレッジ講座編成の考え方について」

(県事務局より資料4に基づき説明)

加茂委員

私の背景をお話しさせていただければと思います。市のコミカレのような講座に参加して、3人で集まって何かやってみようとなり、それが市民活動の始まりです。3人で集まって始めた団体は、現在大きな団体に変わることができました。最初に取り組んだ時のことなのですが、3人のうち2人は育児休業中の人でした。私は今、3人の子どもを育てていて、育児休業を9年間取ることができ、その間に活動を大きくすることができたという経緯があります。

人生の中でおそらく市民活動に最初に興味を持つというのは、育児休業や社会から離れた瞬間ではないのかなと思います。そういう人たちをターゲットに再度設定していただきたいと思っております。あの時集まった仲間たちは、現在、それぞれの市民活動でご活躍されていますし、もちろん県と連携して活動されている方もたくさんいらっしゃいます。子育てをしている人が参加できる講座、とはいっても連続講座を受講するのはすごく難しいと思います。10回講座だと欠席率が非常に高かったですので、そうではなく、単発でやられている例えば2回連続講座で、3人で集まってみようという話から、それから実際にどんなことができるのかという、本当に落ち葉掃きから始まる話なんですね。そういうのにトライしてほしいなと思っております。また、市民活動をしている年齢構成層は、上がっていきまいます。年齢構成層が上がっていくと、市民活動の元となる、核となるものが聞き取れなくなります。「何に困っているのか、何を行政と連携して補っていくべきなのか」というのがだんだん分からなくなってきました。私も市民活動を始めたときに比べると、今は皆さんの意見を取れるという年齢ではなくなってきました。それを取り込む方法というのを何か講座で作れないのかと思っております。市民活動の元となる、核となるものの聞き取りについては、おそらく傾聴か何かの講座でカバーできると思います。傾聴といっても、困っている人のところを訪ねて傾聴するのではなく、何に困られているというのは、会話の中でアイコンタクトを取りながら聞き取っていくということが非常に大切なのですが、そういった講座があってもいいのではと思っております。色々な方針の方がいるとは思いますが、神奈川県の大範囲で「主体的に頑張ってください」というようなことが多いように感じます。主体的に活動するのは限界があって、行政と連携して取り組まないと、いつか課題がたくさん溜まって解決不能に陥ると思います。解決不能に陥ると、市民活動をする人もどんどん減っていきます。解決するためには、行政とのつながりがないといけないし、行政にもある一部分は協力していただかないといけないところもあります。課題が積み重なり過ぎてしまって瓦解してしまうというのは市民活動ではよくあることです。ノウハウというのは、講座ではなくてもどこかにあるといいなと感じました。

最後に、大体の方はコアになるものを決めた後に、次にどうやって周知したらいいだろう

というようになります。現地をみたいという人と、どうやって周知したらいいだろうという人がいます。周知のためのスマホ講座がないと難しいと思います。市民活動をやっている団体の支援をやっているのですが、ここで行き詰ってしまいます。こういったところをカバーできるようになれば、人生100年となったときに、市民活動を10年で中断するのではなくて、20年、30年というように、私も100歳までできるとしたら70年間できるように頑張っていきたいと思うので、ご審議いただきたいと思います。

伊藤座長

ありがとうございます。加藤委員、お願いします。

加藤委員

資料4の別紙の方で、令和5年度の目標や必ず実施すべき講座というところで、新たに⑦環境・SDGsが入っていますが、少し漠然としていると思います。頭に「環境」がついているので、どこを狙っているのかなと全く分からないなと思いました。教育だと、SDGsの4番目に入るのですが、これは何番目を想定しているのでしょうか。

県事務局

SDGsというとゴールがたくさんある中で、地域のコミュニティと考えた時に一番近いところでビーチクリーンとかありますので、そういった意味で環境というところを設定させていただいたと伺っております。もう少し広く根拠に基づく色々なテーマを設定しても良いかと思うのですが、SDGsの部分を地域コミュニティで考えたときに、SDGs的な視点で何かやっていくべきことを何かご意見があればいただければと思います。

加藤委員

やはり頭に「環境」がついてしまうと、「環境と〇〇」という関係性になり、そこをつなげるのが非常に難しいかなと思います。耳障りは非常に良いと思います。

県事務局

そうすると、分野としてはSDGsとしておいて、それぞれの提案者が考えて提案していくというのが良いということでしょうか。

加藤委員

私個人的にはそう思います。

為崎委員

SDGsについて、昨年の委員会の意見を踏まえて設定されていると思うのですが、どうい

う経緯でSDGsを入れたのかという議論の記憶がやや曖昧になってしまっています。確かに加藤委員がおっしゃるように、SDGsは色々なものに関わっていますので、ここに置いてしまうと偏りがある気がします。SDGsを単独で置いても、他のものとの重複が生じるので、もしかすると外してしまってもいいかと思います。元々、「環境」でやってきていたので、SDGsを外すのも1つの選択肢ではないでしょうか。

令和6年度の設定ですが、大きく情勢は変わっていないと思いますので、令和5年度のテーマを引き続きということには異論はありません。ただ、県の基本構想の策定を進められているという中で、「少子高齢社会・人口減少社会への対応」は前々から言われてきたところですが、「予測が困難な時代への対応」というのは、最近重要性が大きく高まっている気がするのと、「神奈川の特徴を生かしたまちづくり」というところもキーワードのような気がしています。メインテーマの設定は令和5年度と同じでいいのですが、メインテーマの説明のところにこういった「少子高齢社会・人口減少社会への対応、予測が困難な時代への対応などを踏まえ」といったような文言を入れていただくと良いかなと思います。

総合計画の「神奈川の特徴を生かしたまちづくり」という言葉をみると、改めて、メインテーマの「地域での助け合いが広がる社会づくりを目指して」という言葉の中に、“神奈川らしさ”ということが何も入っていないと感じた次第です。何が神奈川らしい社会づくりなのかと問われると、なかなか難しい面もあると思いますが、例えば“多様性”などでしょうか。神奈川の特徴というのをネットで調べてみても、政令指定都市が3つあるのは神奈川だけというのが出てくる一方で、自然が非常に豊かということもあげられており、非常に“多様であること”が神奈川県の特徴なのかなと思います。どんな形で“神奈川”という要素を入れるのかという難しい面がありますが、このメインテーマの中でなくてよいので、メインテーマの説明部分でも、“神奈川らしさを踏まえた社会づくり”といった言葉が少し入ってくると良いかなという気がしました。

伊藤座長

ありがとうございます。澤岡委員、お願いします。

澤岡委員

私もテーマを継続してさらに深めて広げていくという位置付けは大賛成です。どこにどう入れ込むかというのは、思いつきはないのですが、自分は高齢社会や高齢者比率に関しての専門というところでコメントさせていただきます。県が課題として認識されている「予測が困難な時代への対応」、それから「少子高齢社会・人口減少社会への対応」という部分ですが、例えば、一人暮らしの方の中にも一人であることを選び取った人と、一人になってしまった人というのが地域社会に混在していて、それがディフレクションを起こしてしまっていて、これから地域が分断してしまうのかなという部分もあります。「少子高齢社会・人口減少社会」と大きくざっくり言うのもいいですが、おひとりさまが増えていく中で、一人

暮らしの高齢者の中身も変わって多様化しています。

もう1つ、これから5年、6年先を見越した時の予測が困難な時代への対応の部分の話ですが、日本で働いている外国籍の方々も、これから段々にご高齢になっていく中で、地域で居場所づくり等をされている活動団体の方々がそれを見越して今から「そういう人（外国籍の人）たちがこれから我々の中に入ってくるね」や「一緒に居場所を作っていけないといけないよね」ということも含めて、これからの変化をしっかりと見越して皆さんが活動できるような学びが必要だと思います。何か漠然と「予測が困難な時代」とするのではなく、具体的な項目を挙げて、これからの見越した活動者になれるといった要素を講座の中に入れるようにしていくと良いのかなと思います。これから起こる地域の変化というのを見越して活動団体がこれからの活動を考えていけるように、すべての講座に含めていけると良いなと思います。

もう1点、私は高齢者のICT活用を研究していますが、今年度のICT活用の部分で「スマホサポーター養成講座」を実施するのは、非常に素敵だなと思います。サポーター養成というのは割と色々な市区町村の自治体で実施されていますが、ただのスマホサポーター養成ではなくて、スマホサポーターが地域社会の中で増えていくことで、どんな豊かな高齢者社会が実現するのか、スマホを教える講座やサロンみたいなものが地域の中で増えていくことが、地域社会にどんな良いことがあるのかという、ある意味哲学的な部分があると思います。ただ教室で話を聞いてスマホサポーターを増やしましょうということになると、市区町村が実施しているボランティアサポーター養成講座のようになってしまいます。やはりこのコミュニティカレッジで実施する意味は、その哲学の部分が学べるというのが大事だと思います。今のスマホサポーター養成講座が悪いというわけではなくて、講座を実施することで、どんな風に地域社会を変えていくのかを考えていけるような場とするという意図が来年度の講座募集の時に伝わると良いのかなと思いました。

伊藤座長

ありがとうございます。鶴山委員、お願いします。

鶴山委員

メインテーマについてご提案いただきましたが、総合計画の方と方向性が合致していると感じますし、人口減少が全都道府県で始まってきているという話がありましたので、是非、神奈川県が全国をリードしていただきながら進めていくことに賛成です。

そういった中で、可能な範囲で考慮すべき事項ということですが、朱書きの「新型コロナウイルス感染拡大を経て変容した団体、法人等のニーズを踏まえた講座を可能な範囲で盛り込むこと。」という部分について、大事なことですのでは是非にと思いました。

私ども団体は、地域での助け合い活動を全国で推進するということで、色々な団体とつながって状況を伺っていますが、居場所づくりや人が集まるというところはかなり閉じて

しまっているという状況があると思います。その中で「予測が困難な時代への対応」と合致するかは分かりませんが、こういう住民の主体的な活動というのは、主体性があればあるほど、状況にあわせて柔軟に活動を変化させているというところが、今でも継続しているのではないかと実感しております。そういったところのノウハウや、実践の話といった部分を発信していけるような講座もあると、コロナだけでなく色々なことが起こっている中で、形を変えながらも、方法は変えないというような運営を進めていけるのかなと感じているところです。

伊藤座長

ありがとうございます。為崎委員、お願いします。

為崎委員

このコミュニティカレッジは、これから10月、11月に講座募集をし、その応募があった講座と運営受託希望団体が提案した自らが企画・実施する講座を組み合わせてやっていくものなので、例えば、時代の動きの中で必要なテーマが生じてきたとしても、応募や提案がなければ講座が実現しないという構造になっています。ですので、今言っていたような議論というのは、運営受託団体の募集の時もそうですが、講座募集の時にも、とても大切なのではないかと思います。「こういう時代だからこういう講座を応募してください」というような呼び掛けをして、講座として応募が挙がってこなければ必要であってもできないという事態になります。従って、講座募集時にも何らかの形で、今の時代を踏まえたということを入れて募集することが大切かなと思いました。

県事務局

これから募集要項を作成していきますので、今日いただいた意見を入れていくことを検討したいと思います。

伊藤座長

分野が7つあることについて質問ですが、例えば加茂委員や鶴山委員から指摘があった活動団体の具体的な課題や開かれた場については、③での応募があるという想定ですか。

県事務局

色々な切り口があるので、そこを説明していただければと思います。

伊藤座長

カテゴリーを示すことの重要性とともに、そのカテゴリーがどういう哲学を持って示されているのかを伝えることの難しさを感じるどころでした。

県事務局

県の3つの課題認識を具体的な説明に入れることによって、つながりを説明できればと思います。

加茂委員

少し話が前に戻るのですが、市民活動をしているとトラブルが起きることが多く、破綻する理由になります。この講座いいなと思ったものがありまして、発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座なのですが、子育て系の居場所づくりをする時は必ず直面してしまう課題です。応募者が多い、リピーターがいない状態でこの応募者数ならば、同じような課題を抱えて困難な状況に陥っている人が多くいると思うので、もし可能であれば、この団体さんでなくても、同じような団体さんが応募してくるのであれば、拡充された方が良いのかなと思いました。募集の構造上、難しいのかもしれませんが、募集をかける段階でどこかにエッセンスを入れていただければと思いました。

県事務局

かしこまりました。

伊藤座長

志田委員いかがでしょうか。

志田委員

委員の皆様の見聞きながら勉強させていただいているところですが、神奈川らしさというところで少し気になっていたところで、人口減少が始まったというところですか、全国で4番目だったと思うのですが外国籍の方が多いですとか、色々なところがある中で、どういったところを大事にしていって良いのかなと思いながら、委員の皆様の見聞きを聞いておりました。その中で、令和4年度の実績の中で気になったところがありまして、多文化共生をテーマにした講座や、食をテーマにした講座があり、どちらも応募者数が少ない講座でした。こういう講座はテーマである「地域での助け合いが広がる社会づくりを目指して」という部分に直接的に関わる講座であると思います。応募人数が少ない＝なくすというわけではないというところが、コミュニティカレッジが大切にされている視点の1つだと思いますので、どういった講座が提案されるかにもよるかと思いますが、多文化共生や地域づくり、居場所づくり、子供食堂等、色々な活動が進んでいる中では、令和4年度にあって令和5年度にはない講座ですが、そういったテーマも継続して大事にいただけたら良いのかなと思いました。

伊藤座長

大事なご指摘をいただいたと思います。集まらないから悪いというわけではないということですね。コミカレで大事にすべきことを確実に実施していけたらいいなと思います。

事務局案についてですが、県の総合計画の基本構想に添うということ、今年度のメインテーマを継続するということで、その点は委員の皆さんよろしいでしょうか。メインテーマの説明部分をもう少し具体的に哲学が伝わるように丁寧に書いていただければと思います。

「予測が困難」や「神奈川らしさ」もそうですが、具体的にどういう講座につながっていくのかというのが見えてくるような表現、説明を追加していただければと思います。

県事務局

県の方で確認し、また委員の皆様にご相談させていただければと思います。

伊藤座長

環境・SDGsの文言の表現についても、一度検討していただければと思います。

他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。加茂委員、お願いします。

加茂委員

県で決まっているのかもしれませんが、分野の「子どもの健全育成」の“子ども”というところなのですが、取り巻くというイメージの方が良いのかなと思いました。子どもが主体なのですが、子どもをターゲットにしたものではなくて、子どもを取り巻く環境自体が神奈川県すごく弱くもったいないなと感じているので、取り巻くというような文言に変えることで、子育てをしている人をターゲットにしているようになるかなと思います。今の文言だと、子どもをどうにかするというようになるので、そこを広げて募集していただけるとありがたいです。

県事務局

何か具体的に取り巻く環境、子育て支援だとか適切なアイデアはありますか。

加茂委員

専門家にお任せしたいなと思っているところです。子どもを育てている人自体を支援できなければ、少子化は進んでしまうと思います。

実際、子育てをされていて厳しいなと思う局面はありますが、その時に助けてくれるのは市民活動仲間であったりします。いくら「主体的」と言ったところで限界があり、それを見て誰が子育てをしたいと思うのだろうかと感じるところはあります。

県事務局

今いただいたキーワードを元に練ってみます。

以上